

下剤使用に抵抗のある妊婦に対する薬局薬剤師の介入状況

竹部 美紀¹⁾、吉井 裕紀²⁾、石黒 貴子³⁾、前田 守⁴⁾、長谷川 佳孝⁴⁾、月岡 良太⁴⁾、森澤 あずさ⁴⁾、大石 美也⁴⁾

- 1) 株式会社アインファーマシーズ アイン薬局 浦和店
- 2) 株式会社アインファーマシーズ アイン薬局 川口駅東口店
- 3) 株式会社アインファーマシーズ
- 4) 株式会社アインホールディングス

【目的】下剤を含め薬剤の服用に抵抗がある妊婦は少なくないが、妊娠中はホルモンバランスの変化や大きくなる子宮が腸を圧迫することで便秘リスクが高まる。そこで本研究では、妊婦への下剤処方時の薬局薬剤師の介入状況を調査し、薬剤服用に抵抗のある妊婦への服薬指導における課題を考察した。

【方法】2019年11月29日～12月24日の期間に当社が埼玉県、東京都で運営する保険薬局39店舗に在籍する薬局薬剤師101名を対象に社内イントラネットを用いたアンケートを行った。主な項目は「薬剤服用に抵抗のある妊婦への投薬経験」「聴取した不安項目」「不安に対する指導内容」「下剤処方時の指導内容」「便秘症状への介入事例」とした。妊婦に対して原則禁忌である下剤は調査対象外とした。なお、本研究はアイングループ医療研究倫理審査委員会の承認を得て実施した(承認番号AHD-0038)。

【結果】有効回答90名のうち、61名(67.8%)に薬剤服用に抵抗のある妊婦への投薬経験があった。妊婦から聴取した不安項目は「胎児への影響」(57名、93.4%)が最も多く、次いで「副作用への不安」(31名、50.8%)であった。不安に対する指導内容では「周産期とリスク」と「不安を軽減する声かけ」がそれぞれ44名(72.1%)と最も多かった。また、下剤処方時の指導内容では「胎児への影響有無」が40名(65.6%)と最も多く、次いで「多めの水で服用」が38名(62.3%)であり、「食生活の改善」(29名、47.5%)や「適度の運動」(16名、26.2%)などの生活習慣に関する指導よりも多かった。介入により患者の便秘が改善した経験がある薬剤師は13名(21.3%)であり、その指導内容は「食生活の改善」(4名、30.8%)が最も多かった。

【考察】本研究の結果から、薬剤服用に抵抗のある妊婦に対して服薬指導の経験を持つ薬局薬剤師は多く、胎児への影響や副作用に対して不安を持つ妊婦が多いことから、指導内容はリスクや副作用の対処に力点が置かれている傾向が見受けられた。

しかし、下剤処方時に「食生活の改善」を指導したことで症状改善につながった事例も確認できた。したがって、妊婦に対する下剤処方時の服薬指導では、安全な服用に関する指導はもちろんのこと、生活習慣に関するアドバイスも実施し、可能な限り下剤に頼らずに便秘リスクを下げられるように努めることも薬局薬剤師の重要な役割と考える。

(第 53 回日本薬剤師会学術大会(2020 年 10 月, 札幌)にて発表)